

## 学校経営推進費 評価報告書（最終）

### 1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立港高等学校
取り組む課題	授業改善への支援（生徒の学力の充実）
評価指標	①本校独自意識実態調査による図書室利用者率などの数値向上 ②英検・漢検の準2級以上合格者の増加 ③外部学力診断テストにおける生徒の学力レベルの向上・第1希望進路達成率の向上 ④年間図書館貸し出し冊数や不読率の低下
計画名	「本とのちから」～ みなと図書 Can にできること～

### 2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>1 確かな学力の定着と学びの深化 → 主体的に学ぶ力の育成と授業改善</p> <p>（1）新学習指導要領を踏まえ、社会の中で生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、学びを人生や社会に活かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養を行うための授業改善と教員の資質向上に取り組む。</p> <p>（2）英語力の向上とともにプレゼンテーション能力を育成する。</p> <p>3 将来をみすえた自立性の育成 → 自己を確立し未来を切り開く力の支援 → 夢や目標を持った生徒の育成</p> <p>（1）進路指導の充実を図る。R4 学校経営推進費（「本とのちから」～みなと図書 Can にできること～）を活用、英語検定合格指導や英語多読本活用等。</p>
事業目標	<p>大阪府子ども読書活動推進計画や学校図書館活性化ガイドラインおよび指示事項に示されているように、若者の文字離れ読書離れには深刻なものがああり、生徒への社会に対する関心や知識を増やすためにも、新聞や本を用いた授業や総合的な探究の時間などの充実が今後ますます求められている。</p> <p>本校でも年に1度も図書室に行かない生徒はほぼ90%になっている。本校生徒の特徴に応じた読書活動を推進し、少しでも本を読む生徒を増やし、不読率を大阪の平均（45%）以下にすることを第1の目標とする。</p> <p>① 教科（特に英語）と図書室との連携を強化 速読・多読活動の推進。授業での図書室利用。 総合的な探究の時間での図書室利用体験。修学旅行事前学習。</p> <p>② 資格検定やキャリア教育とリンク 全員受験の英検や漢検への取り組みやキャリア教育に関することに関係づけた本を増やす。</p> <p>③ 検定や第1希望進路達成への支援 入試や英語検定に向けて外部人材の活用により対策講座を実施。</p> <p>④ 気軽に本に触れられる環境づくり 図書室前スペースに、可視化を意識した空間づくり。</p> <p>⑤ 地域と図書活動を通じての連携 絵本などの読み聞かせ活動（幼・小・高齢者施設など）や、近隣小・中との図書活動交流会。インターンシップ活動ともリンク。</p> <p>これらを通じて、活字からの学習という新しいツールの獲得や自発的な読書習慣を身に付けさせることで、さらなる自己実現支援を行う。夢や目標を持った生徒を育成し、未来を切り開く力の支援を行う。また、本を図書室から持ち出して生徒の目につく場所に持っていく</p>

	<p>ことと教科と連携を強化することで生徒の図書室への人流をつくり、全国平均（35％）より10％も高い大阪の不読率（45％）の改善をめざし、生徒の学力向上や第1希望進路達成率の向上や地域連携にも寄与していきたい。</p>
整備した設備・物品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種書籍（文学作品の漫画本、本の読み方指南本、英語・漢字検定関連書籍）</li> <li>・英語多読速読用書籍（英語多読本・速読本、英字マガジン、英字漫画本）</li> <li>・図書館消耗品</li> <li>・アカデミックスペース用消耗品等</li> </ul>
取組みの主担・実施者	<p>コア会議（将来構想委員会）・国際交流委員会・授業力向上PT・総務部（図書室担当）</p>
本年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初年度の活動の継続。</li> <li>・W-UP（朝学）での読書活動の取入れ。</li> <li>・7限チャレンジ講習に多読・速読の講座を開設。</li> <li>・ブックレポート校内コンクールの実施。</li> <li>・一般図書の読書感想文コンクールの参加。</li> <li>・保育士、介護士、幼教などのインターンシップ活動として地元の幼・小・高齢者施設などで絵本などの読み聞かせ活動の実施。</li> <li>・これまでの取組みの検証と3年間を見通した図書活動や教科活動、進路指導の見直し。</li> </ul>
成果の検証方法と評価指標	<p>①本校独自意識実態調査による「図書室を授業以外で利用しますか」の「ほぼ利用しない」を50％に。</p> <p>②英検・漢検の準2級以上合格者の増加。前年度プラス5名（35名）。4大・短大進学率70％に。（R3+5P）</p> <p>③外部学力診断テストにおける生徒の学力レベルの向上。国数英3教科C3以上の人数割合を3年時70％以上。</p> <p>④年間図書館貸し出し冊数や不読率。年間図書館貸し出し冊数4150冊（R3の5倍） 不読率45％。（R3-45P）</p>
自己評価	<p>①英語の多読用図書等のチャレンジ講習や授業活用は継続できている……………（○）</p> <p>②目標級の1次試験の合格者数は+11名（R5年度比）……………（◎） 進学率は希望者が少し減少しているが、4大進学率は4％アップした……………（○）</p> <p>③目標学力レベルR5:54%→R6:49%、第一希望進路達成率は約88%に到達。……………（△）</p> <p>④R4当初に立てた数値を大きく割り込み、286冊、不読率78%という結果になってしまった。今年度は貸出数増加、図書館来室数増加を目標に、昨年度から継続して図書館専用のSNSを活用した広報活動でおすすめ図書の紹介等を行ったり、各学年フロアに移動図書館の設置、今年度も図書便りの発行に取り組んだりしたが、数値結果につながらなかった。……………（△）</p>
事業のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英検対策講座はこの3年間、大変効果があった。英語学習に対する興味が高い生徒の支援となっていた。また、図書館入り口に設置できたテーブルやいす等で作られた空間の利用率が大変高く、学習および読書や相談のスペースとしての活用ができており、推進費の最も大きな効果のある部分となっている。また、ホワイトボードを活用した連絡掲示板としての活用にとどまらず、協働学習のツールとしての効果は高かった。</li> <li>・移動図書館の設置やチャレンジ講習等での活用はしているものの、それ以外での図書貸出し数の増加や利用率の増加につながっていない。1人1台端末の活用、スマホでも本が読める等、ICTの変化が速いので、映画DVD（英語字幕）などを図書館に置き、その場で鑑賞できるようにするなどの、新たな取組みが必要。</li> </ul>

3. 事業費報告

今年度事業費総額	160,000	円
----------	---------	---

積算内訳

\* 決算科目（節）を明示し、節毎に積算内訳を記載すること。

積算内訳	科目（節）	番号	内訳	単価	数量	金額
	1 報償費	1	英検対策講座	¥16,000	10	¥160,000
		2				
		3				
					小計	160000
					合計	¥160,000